

令和元年度学校関係者評価

中央歯科衛生士調理製菓専門学校 高度調理経営学科

令和元年度学校関係者評価委員

■保護者

拇速久美子様

高度調理経営学科 1年 里奈さん保護者

■企業関係者

黒羽 徹様

タントローバ デル ミュゼオ御殿場 料理長

■他校関係者

高野信広様

中央調理製菓専門学校静岡校 調理学科長

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】

| | 平均 |
|-------------------------------|----|
| 1 教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。 | A |
| 2 教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。 | A |
| 3 教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。 | B |
| 4 組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。 | A |
| 5 鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。 | A |

【現状の問題点】

教育目標の浸透については学園全体の平均よりも低くなっている。掲示する等の工夫をもっとすすめなければならない。

【改善のための方策】

学生クレドをもっと活用したり、学生に教育目標、理念をわかりやすく説明をする必要がある。学生は、あまり理解していないのではないかと。職員も意識をあげるにより、対学生にも深く掘り下げて指導して行けるのではないかと。思う。

【関係者評価】

内容は詳しくはわからないが、あくまで学生ありきの学校なので、学生が理解しやすい内容にした方がより理解力が上がってくるのではないだろうか。

2. 学校運営

【自己評価結果】

| | 平均 |
|------------------------------|----|
| 5 目標を達成するための事業計画が策定されているか | A |
| 6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。 | A |
| 7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 | B |
| 8 就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。 | A |
| 9 組織内の連携は適切に図られているか。 | B |
| 10 上司の指示は適切にされているか | A |
| 11 上司は提案を受け入れてくれているか | A |
| 12 職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。 | B |
| 13 BSCは適切に活用されているか。 | A |

| |
|--|
| 【現状の問題点】 |
| 全体的には昨年より評価が落ちている。特に組織内の連携については教育を行う上で重要なことであるので、より高評価となるよう対応しなければならない。 |
| 【改善のための方策】 |
| 夕礼のみならず、常に科内ミーティングを行い、全職員が情報等を共有する意識を持つ。来年度は新規職員も入ってくるので、今までは当たり前のことでも、しっかりと連絡、報告をし、知らなかったということが無いようにする。 |
| 【関係者評価】 |
| 会社でも最近では報連相の徹底を図っている。昔と違って上司たるものは、下の人間の意見をどれだけ聞いてくれるかで、評価が違ってきている。上下の意識をある意味変えていく必要があるのかもしれない。 |

| | | |
|---|---|----|
| 3. 教育活動 | | |
| 【自己評価結果】 | | 平均 |
| 13 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | A |
| 14 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | A |
| 15 | 資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。 | A |
| 16 | 資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。 | A |
| 17 | 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | A |
| 18 | 目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。 | A |
| 19 | 職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか | B |
| 20 | シラバスは十分に検討し作成されていたか。 | A |
| 21 | シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。 | A |
| 22 | 教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか | B |
| 23 | 十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。 | B |
| 24 | 学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。 | A |
| 【現状の問題点】 | | |
| 教務の問題の話し合いについて十分でなかったことから評価が下がっている。どこで時間を作るかなど予定をしっかりと立てて話し合いの時間を確保して行きたい。 | | |
| 【改善のための方策】 | | |
| 話し合いをする時間がなかなか取れない・・・ということの無いよう、しっかりと問題に取り組む姿勢を見せていく。定期的にミーティングの時間をつくり、今起こってる問題等にも科の職員が全員把握しているよう、確認をしながら話し合いをしていくことが必要である。 | | |
| 【関係者評価】 | | |
| 年間で行う行事、催事等においてすべてにマニュアルを作成した方が良い。 | | |

| | | |
|-----------------|----------------|----|
| 4. 学修成果 | | |
| 【自己評価結果】 | | 平均 |
| 25 | 就職率の向上が図られているか | A |
| 26 | 退学率の低減が図られているか | B |
| 【現状の問題点】 | | |

残念ながら退学者が増えてしまったのでどこの段階で防ぐことができたかなどケースを分析することで改善につなげたい。

【改善のための方策】

退学者がなぜ出てしまったのかを根本から考える必要がある。学生一人一人の今まで育ってきた環境を把握し、その学生に合った指導をしていかなければならない。カウンセリングの先生にもご協力をいただき、傷が浅いうちに対処するよう心掛ける。

【関係者評価】

企業でも離職率のことが大変大きな問題でもあり、課題でもある。学校と企業が連携していく必要性が大。

5. 学生生活支援

【自己評価結果】

| | | 平均 |
|----|--|----|
| 27 | 学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。 | A |
| 28 | 各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。 | A |
| 29 | 防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。 | A |
| 30 | 進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。 | A |
| 31 | 中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。 | A |

【現状の問題点】

全体的には高評価であり問題はないと思われるが、いくつか問題点もあるようなので改善に努めたい。

【改善のための方策】

年一回の防災訓練では、有事の際に果たしてその成果が出るかが不安であるので、避難経路の確認、動線の確保（余分な荷物等は置かない）等、日頃から学生も職員も意識を持つようにする。なぜ退学を選択してしまったかではなく、なぜ退学を考えるようになったかを早めに見極める必要がある。それには、ふとした態度の変化、休みがち、身なりの変化に敏感に気づくことが大切である。

【関係者評価】

防災の意識を高く持つことは、非常に重要である。会社でも防災訓練を徹底するように指導されている。

6. 教育環境

【自己評価結果】

| | | 平均 |
|----|----------------------------------|----|
| 32 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | B |

【現状の問題点】

評価が低いので施設整備については改善計画をつくって年度毎に行えるようにしていきたい。

【改善のための方策】

トイレの改装、フロアの清掃等、来年度は部分的にはあるが業者さんに入っただき、校内を少しでも過ごしやすい環境にしていく。調理器具の破損、教室や廊下の蛍光灯等も常に確認をしていく。気が付いたら素通りすることの無いよう、改めて職員全体が意識を持つ。

【関係者評価】

お客様はどこを見ているのわからない。些細なことでも印象が悪くなる。学校でも同じだと思う。学生募集にも大きな影響を与えるのではないか。

| 7. 学生の受け入れ募集 | | |
|--|--------------------------------------|----|
| 【自己評価結果】 | | 平均 |
| 33 | 学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法，時期は適切か。 | A |
| 34 | 入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。 | A |
| 35 | 体験入学の時期、回数、内容は適切か。 | A |
| 36 | 入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。 | A |
| 【現状の問題点】 | | |
| 全体的に高評価となっており問題はないが、募集は年を経るにしたがって厳しくなっていくので常に改善することを忘れずにいきたい。 | | |
| 【改善のための方策】 | | |
| オープンキャンパスの内容についても、満足することなく、常に時代は動いているということ意識し、現在流行しているものにも敏感に反応することが重要である。 パンフレットに掲載されている卒業生の動向にも常に関心を持つ。パンフレットに掲載されていない卒業生の動向も確認することを怠らない。 | | |
| 【関係者評価】 | | |
| 在校生からの意見も聞き、より良い内容のパンフレットを作成した方が良い。 | | |
| 8. 財務 | | |
| 【自己評価結果】 | | 平均 |
| 37 | ・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか | B |
| 38 | ・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか | B |
| 【現状の問題点】 | | |
| 財政基盤を安定していくために学生数の確保、無駄を省いていくなど収支両面での改善努力をしていく必要がある。 | | |
| 【改善のための方策】 | | |
| 学科の予算も、学生数を確保してはじき出されることなので、まずは最低でも定員確保を目指す。安定した財政基盤を作るため、常に節約の意識を持つことも必要である。 その時代に合ったものを教育現場に持ち込みたいのであれば、一にも二にも、学生数の確保が最も重要である。OCや普段の電話対応、レストランでの接客に至るまで細心の注意をしていく必要がある。 | | |
| 【関係者評価】 | | |
| 第一印象がすべてといってもいいほど、サービス業には大変重要なことである。 学園全体がその意識を持つことが今後の発展につながる。 | | |

| 9. 法令等の遵守 | | |
|-----------|------------------------------|----|
| 【自己評価結果】 | | 平均 |
| 39 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | A |
| 40 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | A |
| 41 | 個人情報保護法を遵守しているか。 | A |
| 42 | 各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。 | A |
| 【現状の問題点】 | | |

特に問題はないので個人情報保護には今後とも注意していきたい。

【改善のための方策】

ハラスメントに対する意識を高く持ち、職員間はもちろん、学生に対しても心に余裕を持った指導を心掛ける。心に余裕がないときほど、言葉遣いが荒くなったり、態度が横柄になりがちなので、常に誰かに見られているという意識を持つことも大切である。

個人情報についても今まで通り、しっかりと管理を徹底する。誤ってそれが漏れたりすると、ハラスメントの対象になったり、退学の要因になる場合もあるので十分に気を付ける。

【関係者評価】

今と昔は違うという意識が持てない人間もまだいる。昔の武勇伝は今の若い子供たちには何も伝わらないこともかなりある。